

資料 1

円城浄水場の有機フッ素化合物等の検出に係る
原因究明について

- 1 公共用水域等の水質検査結果
- 2 使用済み活性炭の調査結果
- 3 表層土壌調査結果
- 4 今後の方針

吉備中央町

1 公共用水域等の水質調査結果

●水源の調査

県において、水源である河平ダム周辺水域の水質調査を実施

➤ 日山ダム～宇甘川(8地点)

暫定指針値は50ng/L

採水地点		結果
河平ダム 上流	日山ダム	5ng/L未満
	河平川砂防堰堤内	17ng/L
	権現橋上流2 (日山谷川)	5ng/L未満
	権現橋上流1 (日山谷川)	2,000ng/L
	権現橋 (日山谷川)	1,500ng/L
河平ダム		1,100ng/L
河平ダム 下流	山王橋 (日山谷川)	460ng/L
	大下橋 (宇甘川)	15ng/L

県提供資料
(R5.10.25)
(R5.11.10)

- 河平ダムの上水の有機フッ素化合物の濃度が高い原因を調査する為、ダムに流入する水源を遡って水質調査を実施した。

➤ 日山谷川西側の沢とその北側(14地点)

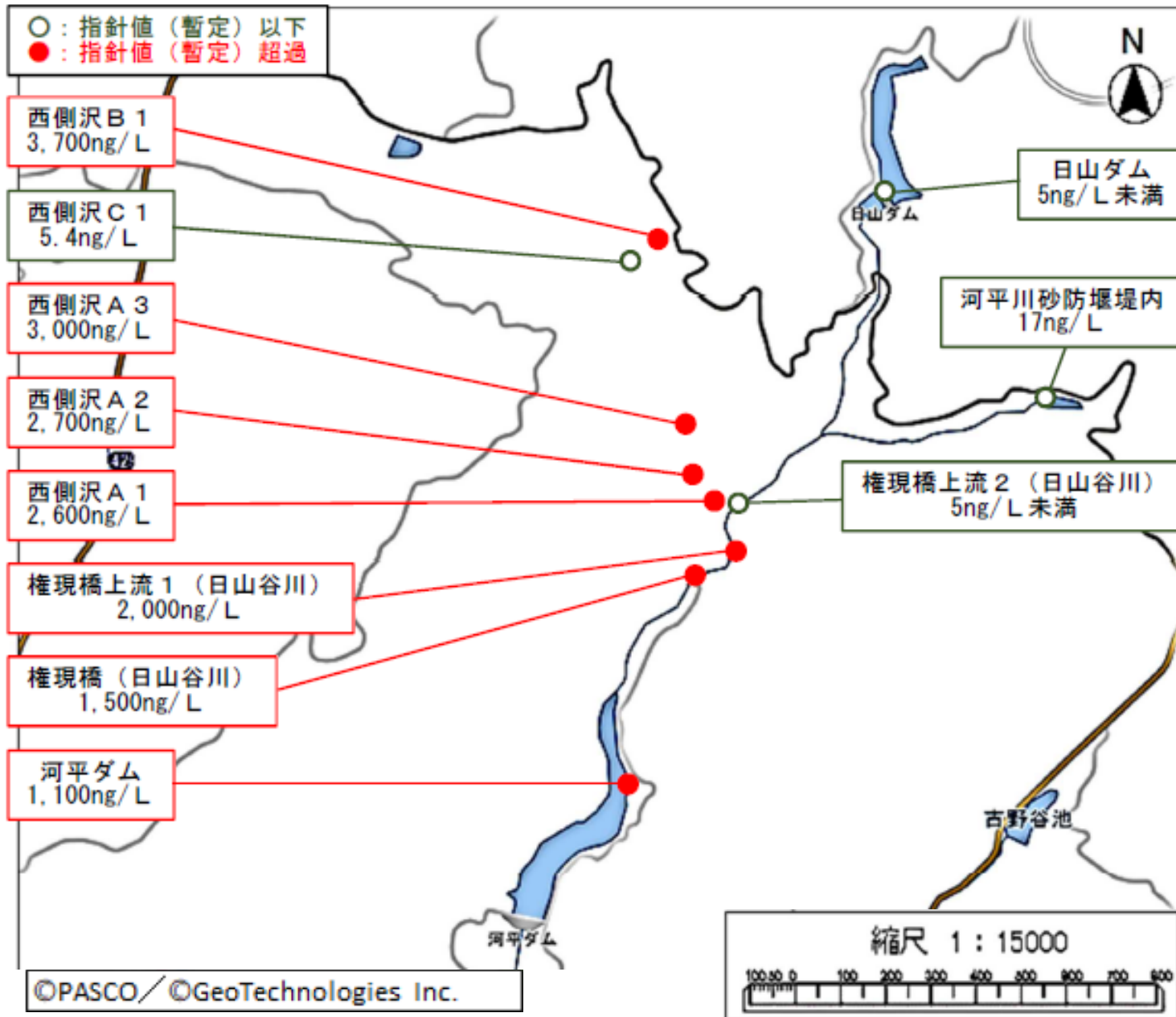
暫定指針値は50ng/L

採水地点	結果
西側沢A 1	2,600ng/L
西側沢A 2	2,700ng/L
西側沢A 3	3,000ng/L
西側沢B 1	3,700ng/L
西側沢B 2	4,600ng/L
西側沢B 3	8.9ng/L
西側沢B 4	15ng/L

採水地点	結果
西側沢C 1	5.4ng/L
西側沢D 1	5ng/L未満
西側沢E 1	14,000ng/L
西側沢E 2	55ng/L
西側沢F 1	62,000ng/L
西側沢G 1	15ng/L
北側沢	5ng/L未満

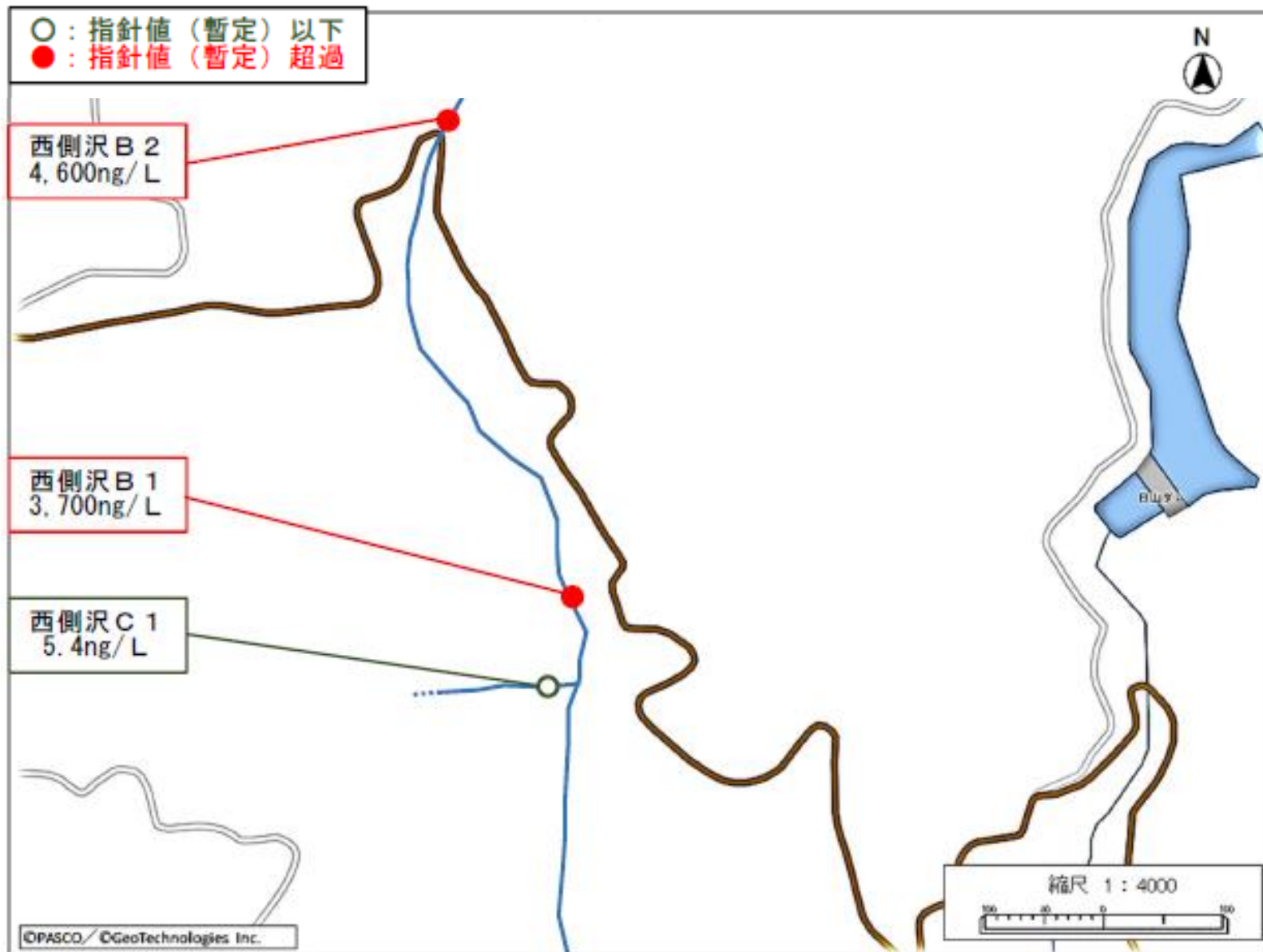
県提供資料
(R5.10.25)
(R5.11.10)

公共用水域の水質調査結果（その1）



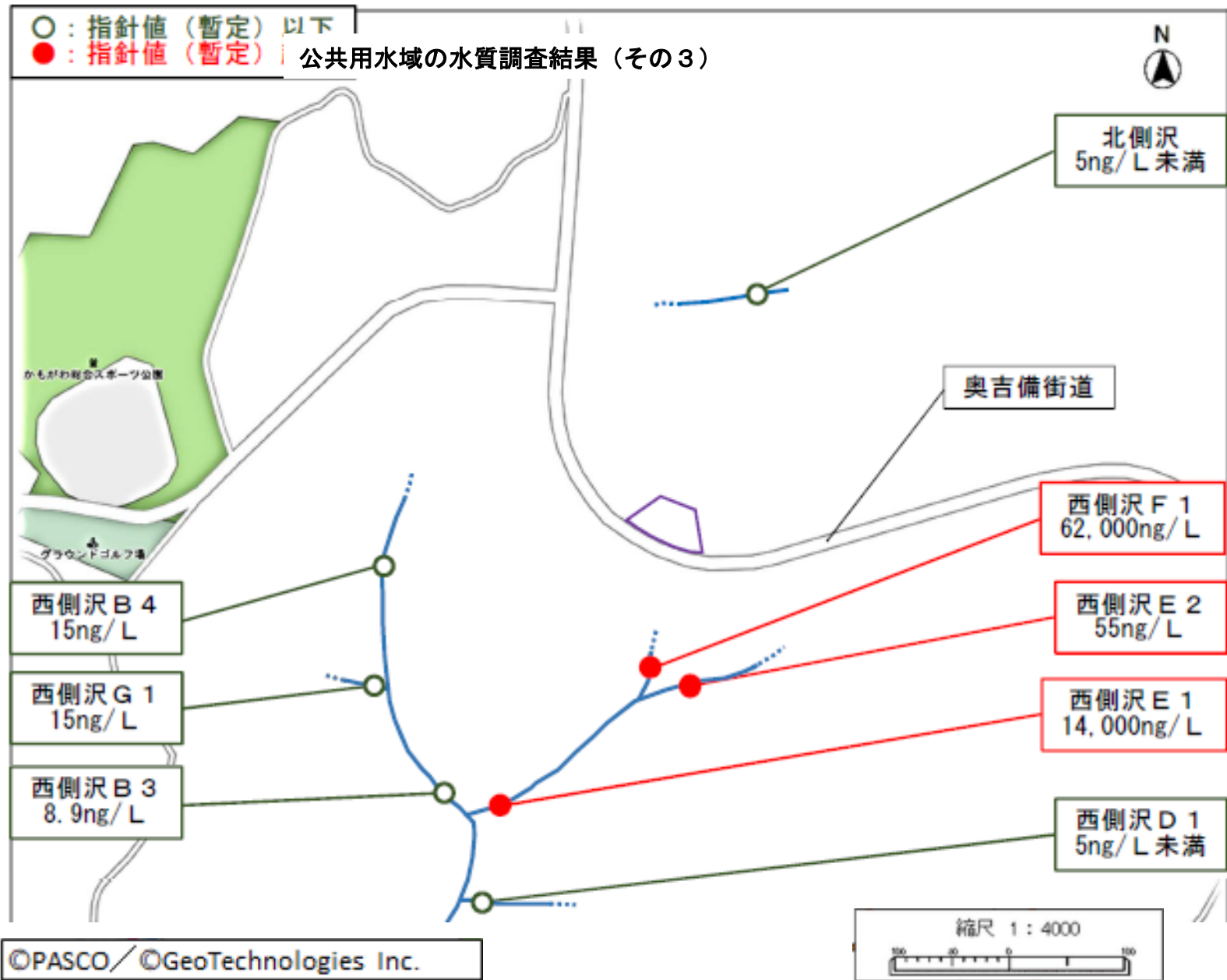
県提供資料
(R5.10.25)

公共用水域の水質調査結果（その2）



県提供資料
(R5.11.10)

公共用水域の水質調査結果（その2）



県提供資料
(R5.11.10)

- 西側沢 F 1 地点北側の奥吉備街道の法面を上がると道路に辿りつき道路北側の平地に使用済み活性炭が入ったフレコンバッグ約 6 0 0 袋が野積みされていた。袋は劣化が激しく、袋を突き破り木が生えていたり、袋が破れ活性炭のみで山積みとなっていたり、土地全体が草で覆われている様な状態であった。
- この活性炭は、土地所有者と企業との間で平成 1 9 年に賃貸借契約が交わされ、平成 2 0 年に置かれていた約 6 0 0 袋のほぼ全量が一度に運ばれた。（企業と土地所有者からの聞き取りによる。）
よって約 1 5 年間、野ざらしで置かれていた模様である。

2 使用済み活性炭の調査結果

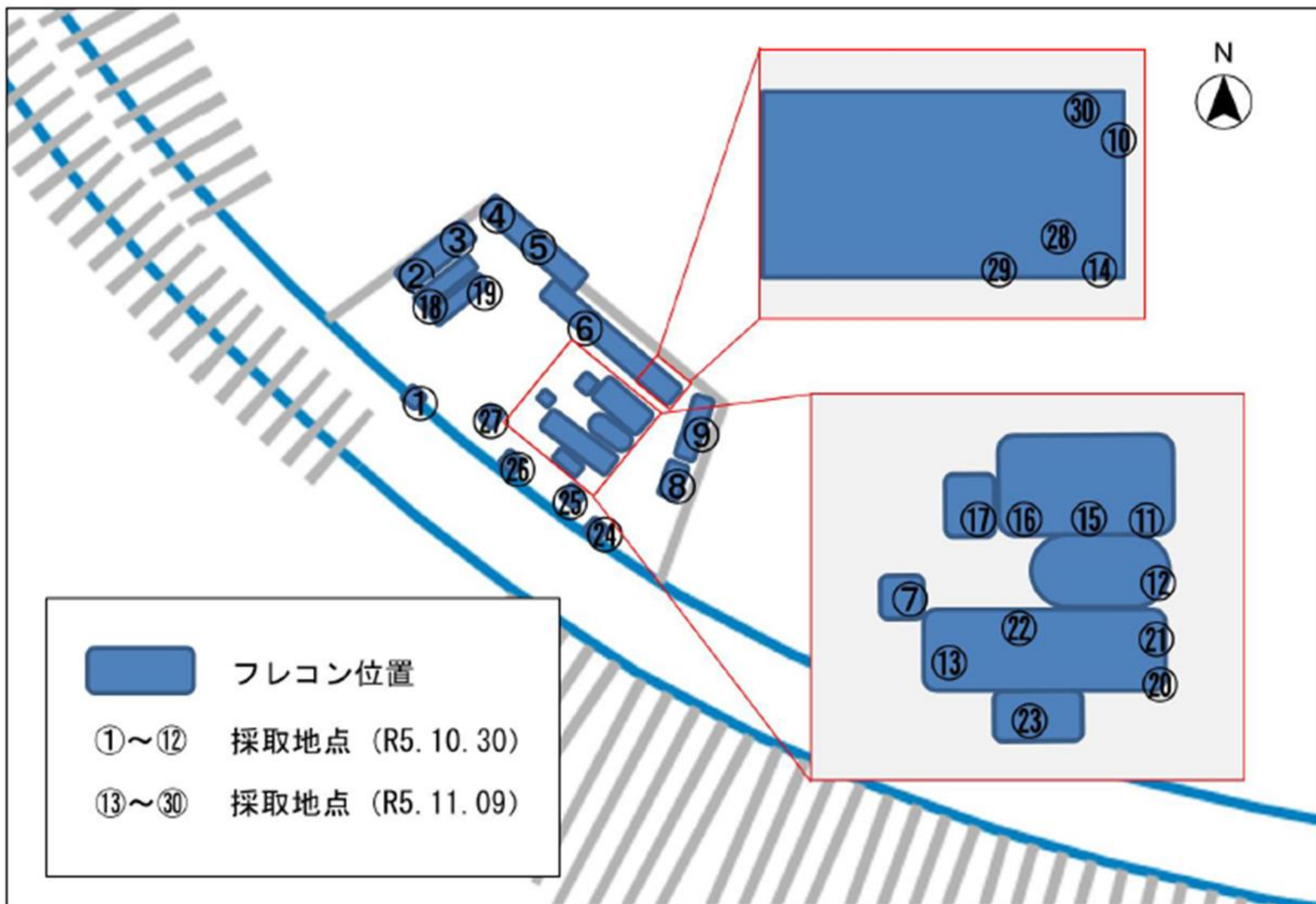
採取地点	溶出量 (ng/L) ※1		
	PFOS	PFOA	合計※2
1	<0.2	<0.2	<0.4
2	<0.2	0.3	0.5
3	<0.2	<0.2	<0.4
4	14.2	9.2	23.0
5	<0.2	<0.2	<0.4
6	<0.2	0.4	23.0
7	<0.2	<0.2	<0.4
8	<0.2	<0.2	<0.4
9	<0.2	<0.2	<0.4
10	68.6	264.0	330.0
11	<0.2	2.1	2.3
12	<0.2	0.3	0.5
13	<0.2	<0.2	<0.4
14	190.0	78.6	260.0
15	<0.2	123.0	120.0

採取地点	溶出量 (ng/L) ※1		
	PFOS	PFOA	合計※2
16	<0.2	5.3	5.5
17	<0.2	1.7	1.9
18	9.3	928.0	930.0
19	<0.2	0.6	0.8
20	<0.2	7.1	7.3
21	<0.2	0.2	0.4
22	196.0	83.8	270.0
23	115.0	23.4	130.0
24	<0.2	<0.2	<0.4
25	<0.2	8.1	8.3
26	<0.2	0.2	0.4
27	<0.2	4,550,000	4,500,000
28	38.5	3.6	74.0
29	139.0	158.0	290.0
30	171.0	165.0	330.0

※1 「土壌中のPFOS、PFOA及びPFHxSに係る暫定測定方法（溶出量試験）」による。

※2 有効数字の取り扱いは、公共用水域・地下水を準用（有効数字2桁、3桁目切り捨て）

原因究明委員会資料(R5.12.25)



原因究明委員会資料(R5.12.25)

3 表層土壌調査結果

資材置き場

採取地点	溶出量 (ng/L) ※1		
	PFOS	PFOA	合計※2
置場1	150.0	210	360
置場2	<2.5	59	62
置場3	43.0	71	110
置場4	<2.5	10,000	10,000
置場5	<20.0	160,000	160,000
置場6	8.8	21,000	21,000
置場7	6.0	39,000	39,000
置場8	<20.0	750,000	750,000
置場9	<20.0	740,000	740,000

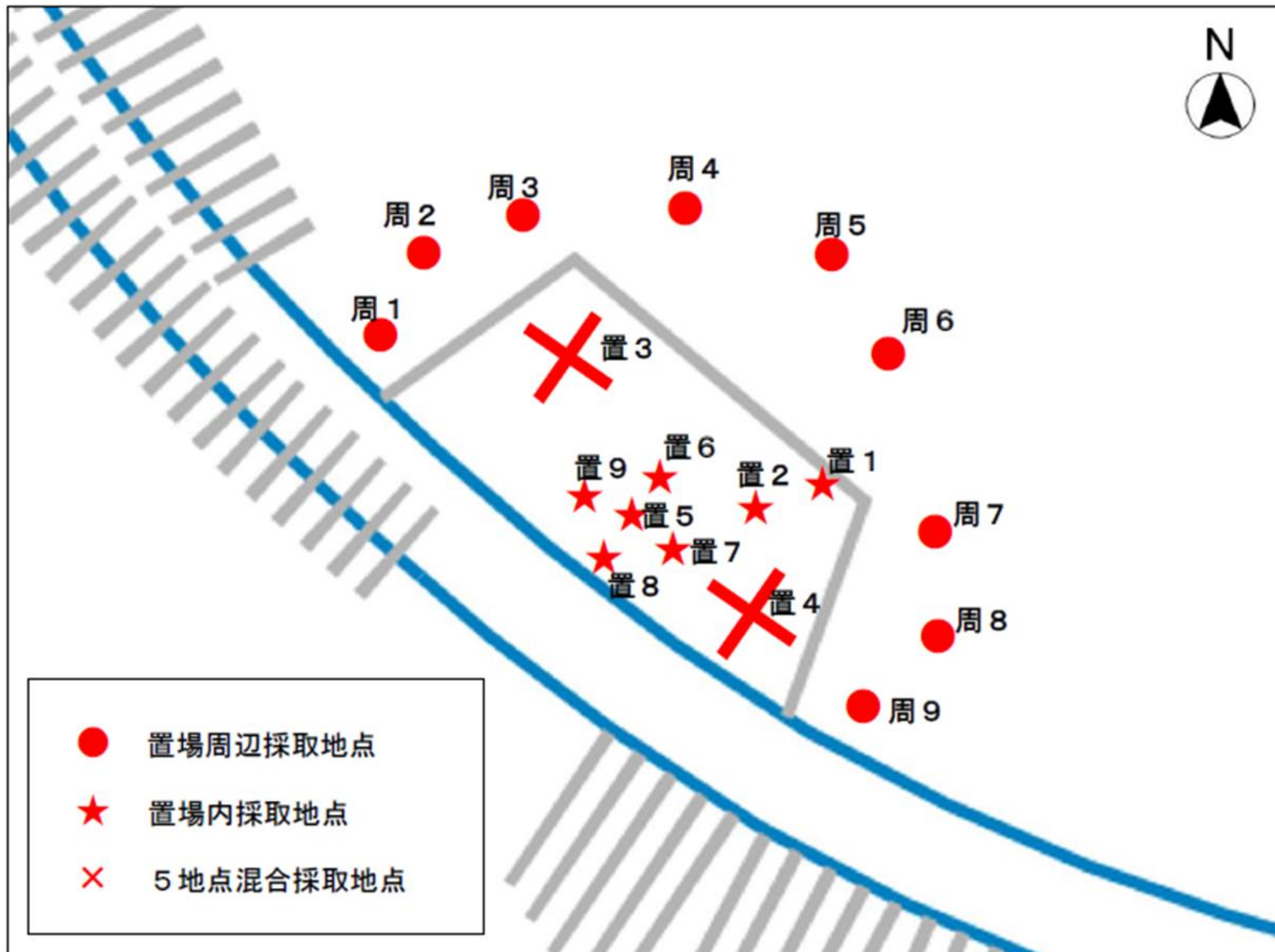
資材置き場周辺

採取地点	溶出量 (ng/L) ※1		
	PFOS	PFOA	合計※2
周辺1	<2.5	15	17
周辺2	<2.5	13	15
周辺3	<2.5	17	20
周辺4	<2.5	45	47
周辺5	<2.5	23	25
周辺6	<2.5	21	24
周辺7	<2.5	19	21
周辺8	<2.5	27	30
周辺9	<2.5	24	27

※1 「土壌中のPFOS、PFOA及びPFHxSに係る暫定測定方法（溶出量試験）」による。

※2 有効数字の取り扱いは、公共用水域・地下水を準用（有効数字2桁、3桁目切り捨て）

原因究明委員会資料(R5.12.25)



原因究明委員会資料(R5.12.25)

4 今後の方針

- これまでの調査結果から、使用済み活性炭から溶出した有機フッ素化合物が直下の土壌へ浸透し地下水へ混入、西側沢F 1地点へ流出した可能性が高いと考えている。
- この仮説を検証するため、有識者による原因究明委員会を設置した。
- 原因究明委員会から、深度調査（ボーリング調査）の必要性を提言されており、現在それに向けて準備中である。